

令和4年度 第1回 三島市子ども・子育て会議 会議録（公開用）

開催日時 : 令和4年9月20日（火）午後1:15～午後2:45
出席者 : 山本（睦）委員、杉村委員、岩清水委員、岩井委員、芹沢委員、斉藤委員、日置委員、山田委員、越膳委員、森島委員、伊藤委員、岩見委員、小早川委員、山谷委員、森委員 計15人
欠席者 : 山本（知）委員、加藤委員、鈴木委員、小田部委員、平賀委員 計5名
事務局 : 水口社会福祉部長
健康づくり課 佐野課長
子育て支援課 渡邊課長、遠藤主事
発達支援課 杉山課長
子ども保育課 長島 課長、渡邊 副参事
教育総務課 杉山課長
会議の公開非公開の別 : 公開
傍聴者 : 0名

議題

- (1) 「第2期三島市子ども・子育て支援事業計画」に基づく各事業の実績報告について…資料1
- (2) 特定教育・保育事業の利用定員について …資料2
- (3) 「第2期三島市子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しについて …資料3

1 開 会

事務局：会議に入る前に、資料の確認。
配布資料は座席表・委員名簿・議題2及び3の資料
（議題1の資料については事前郵送及び質問募集。事前質問なし）

2 委嘱状（任命書）交付

〈豊岡市長より交付〉
三島市子ども・子育て会議の委員の任期は、令和4年8月1日から令和6年7月31日までの2年間。
委員の選出団体の改選等により、20名の委員が就任。

3 挨拶

〈豊岡市長より挨拶〉

4 会長及び副会長選出

・会長：山本（睦）委員、副会長：杉村委員を選出（事務局一任され、出席委員に承認）

5 議 題

(1) 「第2期三島市子ども・子育て支援事業計画」に基づく各事業の実績報告について…資料1 資料1に沿って事務局より説明

〈質疑応答〉

会長

・1つ疑問がある。評価のところ「たいへん効果的に取り組まれている」、「効果的に取り組まれている」、「あまり効果的に取り組まれている」とあるが、上手くいっていないところは、量的なところで見ていると思うが、「たいへん効果的に取り組まれている」、「効果的に取り組まれている」の基準の差になるようなエビデンスはあるのか？例えば利用者に対してアンケート調査を行っているとか、そういう質的な部分の調査があるようなら、教えて欲しい。

事務局

・特に決められた基準はない。担当課の所感で評価している。

会長

・そういうことだと、自己評価になるので、課によって基準がバラバラになり、同じ質なのかが分かりづらい。もし、計画課の様な部署があればそこに相談し、各課である程度の水準を決めた方が良く考える。

・あと、量の問題が一番にくるのは分かるが、先ほど待機児童の件もあったとおり、質的に深堀しないと、どこに問題があるか見えにくい部分がたくさんあるため、何かしら手を打つ必要がある。利用者に窓口でアンケートをとることは難しいのか？

このまま待機児童が減っていないという話になると、今は園の統廃合が必要な時代なのに、全然違う方向にいつてしまうことになるため、エビデンスをどうやって作っていくのが問われている。

事務局

・待機児童の話だと、先程説明したとおり、「本当はこの園に入りたくないけど、申し込んでいる」、と話してくれる様な方も少ないと思われるため、あくまで推測で報告した。今の時期はコロナ禍であり通常の状態ではないため、アンケートをとるにしても、今ではないと考える。ただ、会長のご指摘のとおり、深堀をすることは必要だと考えるので、検討する。

(2) 特定教育・保育事業の利用定員について 資料2に沿って事務局より説明

…資料2

〈質疑応答〉

・なし

(3) 「第2期三島市子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しについて 資料3に沿って事務局より説明

…資料3

〈質疑応答〉

副会長

- ・今後の出生数の見込みとこれからの保育の人員の枠の確保について少し説明をして欲しい。

事務局

- ・まず、出生数については現在600人台/年を推移しており、徐々に減少している状況。
園のニーズというのは、未就学児において保育園、幼稚園、その他各家庭の事情により、認可外保育所に預けたり、支援が必要であればそういった施設に預けられたりと、様々なニーズが存在する。今の質問は保育園側のニーズをどう捉えていくかということだと思うが、実際、数値的には足りない状況になってはいるが、まだ見えない状況の部分も考慮して、今は慎重に判断すべきと考えている。現時点は三島市として、この数字をもって、増設は考えていない。

委員

- ・『にこパル（児童発達支援事業所）』のような施設がもっと必要ではないかと考える。以前、私の幼稚園にいた児童が『にこパル』を利用したいのだけれど、定員に達して利用できなかったことがあった。定員があるものだから、しょうがない部分もあるが、実現可能かどうかは別として、例えば閉園した西幼稚園の建物を利用し、『にこパル』のような施設を開く計画があるのか訊きたい。

事務局

- ・三島市内で児童発達支援事業所は、公立では『にこパル』の1か所だが、民間では7か所ある。（最近、1か所辞めて、1か所新規で開所。公立と民間で計8か所）。
- ・現在『にこパル』の定員24名でやっているが、そこを増員するとか、西幼稚園の建物を利用する計画はない。民間の事業所が新たに参入しているところもあるため、民間施設の経営や入所者数を圧迫しないようにするというバランスも考えている。確かに『にこパル』に入りたいのに入れない人の要望には応えられない部分もあるかと思うが、民間の発達支援事業所も少しずつ増えているので、そのあたりの推移も今後見ていきたいと考えている。

委員

- ・入園前の児童を持つ保護者が「どんな幼稚園・保育園があるか？」などと市役所の窓口に来た時に、児童の発達の悩みを抱えている保護者に、発達支援事業所が含まれている施設の一覧表を渡して案内するということはあるか？

事務局

- ・入園前の段階で発達支援課の相談対象になる方は、一般園に行くか発達支援事業所に行くかを発達支援課から提案することになる。例えば『にこパル』は少人数での療育だが、1対1での個別の療育が適している児童もいるため、そちらが適している児童については、相談の中で保護者にそのような施設を提案し、検討してもらう。
- ・普段、発達支援課に相談される方でないと、そういった施設がどこにあるか分からないため、広報みしま9月1日号に民間の発達支援事業所の紹介記事を掲載している。また、放課後デイサービスなども、今後広報みしまを通じて紹介する予定。

事務局

- ・子ども保育課の窓口で未就学児の児童の保護者が、幼稚園か保育園の問い合わせで来るとき、子ども保育課にいる子育てコンシェルジュが相談内容により、施設のアドバイスも出来る。また、『にこパル』と情報連携をしているため、定員に空きが無いということであれば、次の施設を紹介することが出来る。

委員

・確かに保護者が自分の子どもについて理解し、悩みを抱えていることが分からなければ、市役所も対応できない。最初から、幼稚園、保育園、認定こども園、発達支援事業所を並べて案内することも難しいし、実際に入園してから児童のことが分かることもあると思う。どこの課もどこの施設も大変な問題を抱えているのだと思った。

委員

・三島市はどのように出生率を上げようと考えているのか。また、三島市は静岡県で移住者が一番多いと聞いているが、もっと移住者に来てもらうためにはどのようにすれば良いと考えているか？

例えば、千葉県流山市や兵庫県明石市では、若い世帯の移住者が増えたことに伴い、税収も増えたとのこと。特に流山市では、素敵なショッピングモールなどもあり、こういうところで子育てをしたいと思わせるような産業施設も充実している。

保育と産業の繋がりやそれに伴う今後の展望はどう考えているのか？

会長

・産業関係は各市の総合計画になると思われる。この計画内だと難しい。

副会長

・来月から来年度の保育園と認定こども園の入園集中受付があるため、各園で見学者が多い状況である。今、自分が園長をしている恵明キッズサクラビレッジは三島駅が比較的近い位置にあるため、県外から仕事の都合で引っ越してきて園を探している人が多い。入園に関連する説明をすると、三島市にはこういう制度がある、というのをその場で初めて知る人もいる。三島市で子育てをする魅力をより積極的に発信していけば良いのではないかと考える。

事務局

・三島市全体で子どもを増やそうとすることは近々で重要な課題である。私たちの部署では市長の挨拶でもあったが、『出産祝い金』や『子どもは地域の宝事業』など様々な支援を実施している。また、移住についても、移住・定住の補助金を手厚く支給している。人にたくさん来てもらうためには、産業の活発化や教育環境などの整備なども必要だが、それらについても様々な施策を実施している。PRについても三島市はメディアへの露出も多く、東京に行ってPRをしたり、ホームページや様々なメディアを使用したりしている。現状に甘んじているわけではないので、そこだけではご理解いただきたい。

会長

・三島市に限った話ではなく、世界的に見ても先進国化が進めば少子化になる傾向がある。

子どもの取り合いではなく、地球規模で人口は減少する時代に入ってきているので、その中でどうやって、将来1人で2人分の税金を払える人を健全に育てられるか、その分で色々な福祉をどうまわしていくか、ということを考えていく必要がある。

・話を戻したいが、計画の中間見直しについてはどうか？

委員

・計画の中間見直しをしないことについては、①計画と実績で10%の乖離がないこと、②各課で十分な施策を実施していること、であるため賛成。出生数の推移は今後も考えていく必要あり。

委員

- ・自分も計画の見直しをしないことについて賛成。

会長

・気になっていることが1つある。ここ2, 3年の間に例えば、厚生労働省だと「自己評価のガイドラインの改訂」や「保育者の労働環境の改善（ノンコンタクトタイムの設置、研修についてなど）」があつたりした。

先程の話でもあつたが、放課後児童クラブも人員不足でまわせないという状況になっているので、どうやって働く人たちの保証をしていくのかをもう少し計画に盛り込んで欲しいと考える。研修時間の保証とか、保育園だとノンコンタクトタイムの設置することはどの園も尽力している。特に公立園の運営に関しては、毎年国から施策が変更して通知されるため、何らかの形で都度対応しなければいけないと考えるため、ぜひ機会があれば検討して欲しい。

6 閉会

事務局：

- ・以上で、本日予定された事項は、全て終了。
次回の会議開催は来年度を予定している。まだ時期が未定のため、追って日程などの案内を送らせていただく予定。
これをもって、「令和4年度 第1回三島市子ども・子育て会議」を閉会。

以上